

氏名 (法人にあっては名称)	学校法人 修道学園
住所	広島県広島市安佐南区大塚東1-1-1
計画期間	令和4年4月1日～令和7年3月31日
基準年度(*1)	令和元年度～令和3年度 (平均)

1 事業者の要件 ((1)、(2)については、特定年度(*2)における市内に設置された全ての事業所の合計量)

該当する事業者の要件	<input checked="" type="checkbox"/> (1)原油換算エネルギー使用量(*3)が1,500キロリットル以上 (特定事業者) <input type="checkbox"/> (2)エネルギー起源二酸化炭素を除く物質ごとの温室効果ガス排出量(*4)が3,000トン以上 (特定事業者) <input type="checkbox"/> (3)特定事業者以外の事業者
------------	---

2 事業の概要

事業者の業種	大学 (主たる事業の日本標準産業分類における細分類番号：8161)
事業概要	学校法人修道学園は、広島市内に広島修道大学と修道高等学校・中学校及び広島修道大学ひろしま協創中学校・高等学校を設置している。中でも大規模事業所である大学は7学部13学科、大学院4研究科を擁し、キャンパスの土地面積は約34万㎡、建物延床面積は約9万㎡である。

3 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の実施状況等

(1) 温室効果ガス排出量の抑制に関する目標の達成状況

(※温室効果ガス排出量の下段は削減量の対基準年度比 $((a-b)/a) \times 100$ (aは基準年度の実排出量))

項目	基準年度の実績 a	計画期間の目標 b	計画期間の実績 b			
	令和元～令和3年度 (平均値)	令和4～令和6年度 (平均値)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和4～令和6年度 (平均値)
温室効果ガス実排出量(*5)	4,694 t-CO ₂	4,694 t-CO ₂	4,966 t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂
		0.0 %	-5.8 %	%	%	%
温室効果ガスみなし排出量(*6)		4,694 t-CO ₂	4,966 t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂
		0.0 %	-5.8 %	%	%	%
実績に対する自己評価	計画目標に到達しなかった。令和4年度は大学における学校活動が本格的に再開したため、すべてのエネルギー源の使用が増加した。また基準年度に比較して月平均気温が7～9月は高く、12～2月は低かったため冷暖房使用が増加したと思われる。					

- *1 基準年度とは、温室効果ガスの抑制割合を比較する基準の年度であり、原則として特定年度(*2)とする。なお、基準年度の温室効果ガス実排出量(*5)については、事業活動の著しい変動等により特定年度が基準年度として適当でないときは、事業者の判断により、特定年度を含む連続した過去3か年度の平均値とすることができる。
- *2 特定年度とは、計画期間となるべき期間の最初の年度の前年度をいう。
- *3 原油換算エネルギー使用量とは、燃料の量並びに他人から供給された熱及び電気の量をそれぞれ発熱量に換算した後、原油の数量に換算した量の合算をいう。
- *4 温室効果ガス排出量とは、二酸化炭素(エネルギー起源のもの及び非エネルギー起源のもの)、メタン、一酸化二窒素、ハイドロフルオロカーボン、パーフルオロカーボン及び六ふっ化硫黄)の排出量を二酸化炭素の数量に換算したものをいう。
- *5 温室効果ガス実排出量とは、上記(*4)のうちエネルギー起源二酸化炭素の排出量と、それ以外の物質ごとの温室効果ガス排出量が特定事業者単位で3,000トン以上のものの排出量の合算をいう。
- *6 温室効果ガスみなし排出量とは、上記(*5)に対して環境価値(*8)に相当する温室効果ガスの削減量等を調整したものをいう。なお、環境価値が活用されないときの温室効果ガスみなし排出量は、温室効果ガス実排出量と等しくなる。

(2) 事業分類ごとの原単位(*7)の抑制に関する目標の達成状況 (※任意記載)

(※原単位の下段は削減量の対基準年度比 $((a-b)/a) \times 100$)

事業分類	基準年度の実績 a	計画期間の目標 b	計画期間の実績 b			
	令和元～令和3年度 (平均値)	令和4～令和6年度 (平均値)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和4～令和6年度 (平均値)
		%	%	%	%	%
		%	%	%	%	%
		%	%	%	%	%
原単位の指標及び実績に対する自己評価						

(3) 温室効果ガス実排出量の抑制に関する措置の実施状況

●プログラムによる空調、照明の自動消灯等の最適化を行い、無駄のない運用を図った。
●校舎の一部、および第4グラウンドの照明をLED化した。

(4) 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する措置の実施状況 (環境価値(*8)の活用等)

特になし

4 その他の取組の実施状況

●トイレ便座の暖房、水温を季節により調節した。
●日中温度が上昇する教室等にカーテンを取付けた。
●学生、教職員宛に「省エネ通信」を配信して意識の向上を促した。
●冷暖房の電源が18時15分に一度停止する運用に変更した。
●巡回警備の際、消し忘れられた教室の照明の消灯を徹底した。
●2023年度中に校舎屋上に太陽光発電設備を設置する予定である。

*7 原単位とは、温室効果ガス排出量を生産量、延べ床面積等の当該排出量と密接な関係を持つ値で除したものをいう。

*8 環境価値とは、オフセットクレジット制度等により、温室効果ガスの排出削減等を行うプロジェクトを通じて生成される温室効果ガスの削減量等をいう。なお、温室効果ガスみなし排出量(*6)の調整対象となる環境価値は市内分とし、市長が認めるものに限る。

大規模事業所ごとの温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置及び目標の実施状況等

(※大規模事業所を設置していない事業者は提出不要)

事業所の名称	広島修道大学
事業所の所在地	広島市安佐南区大塚東1-1-1
事業所の業種	大学
事業の概要	教育機関

1 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の実施状況等

(1) 温室効果ガス排出量の抑制に関する目標の達成状況

(※温室効果ガス排出量の下限は削減量の対基準年度比 $((a-b)/a) \times 100$ (aは基準年度の実排出量))

項目	基準年度の実績 a	計画期間の目標 b	計画期間の実績 b			
	令和元～令和3年度 (平均値)	令和4～令和6年度 (平均値)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和4～令和6年度 (平均値)
温室効果ガス 実排出量(*4)	3,678 t-CO ₂	3,678 t-CO ₂	3,966 t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂
		0.0 %	-7.8 %	%	%	%
温室効果ガス みなし排出量(*5)		3,678 t-CO ₂	3,966 t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂
		0.0 %	-7.8 %	%	%	%
実績に対する 自己評価	計画目標に到達しなかった。令和4年度は学校活動が本格的に再開したため、すべてのエネルギー源の使用が増加した。また基準年度に比較して月平均気温が7～9月は高く、12～2月は低かったため冷暖房使用が増加したと思われる。					

(2) 温室効果ガス実排出量の抑制に関する措置の実施状況

<ul style="list-style-type: none"> ●校舎の一部、および第4グラウンドの照明をLED化した。 ●冷暖房の電源が18時15分に一度停止する運用に変更した。 ●巡回警備の際、消し忘れられた教室の照明の消灯を徹底した。
--

(3) 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する措置の実施状況 (環境価値の活用等)

特になし

2 その他の取組の実施状況

<ul style="list-style-type: none"> ●学生、教職員宛に「省エネ通信」を配信して意識の向上を促した。 ●クールビズが浸透し教職員のほとんどが実行していた。 ●2023年度中に校舎屋上に太陽光発電設備を設置する予定である。
